

一般社団法人 大学女性協会 静岡支部

代表：山下 いづみ

公開セミナー「多文化共生と日本語教育」

実施日時：平成 24 年 10 月 20 日（土）13:30～15:30

実施場所：静岡県総合社会福祉会館（シズウエル）701 会議室

参加者：34 人

連携・協働団体：NPO 法人清水ネット、NPO 法人ONES

1. 事業の目的

大学女性協会本部は途上国の女子児童の教育を視野に事業を行い、静岡支部は多文化共生の学習・支援を進めてきた。今年度は、多文化共生で特に日本語教育の活動をしている NPO 法人 ONES と顧問の矢崎氏を講師にお願いして、多文化共生を一層進めるために情報発信をしたい。

リーマンショック以降日本での外国人労働者は、不安定な職場を転々として、家族やコミュニティが崩壊の危機にある。中でも女性労働者や子どもたちにしわ寄せが行き、家族の離散や不就学や退学などで教育を受けていない児童生徒も見られる。

日本で暮らす外国人が、言語を獲得してより高度の教育を受け進路を切り開くためにも、日本語教育をすることは大変重要であり、その補習は意味あることである。

一般市民を対象とした公開セミナーを開催し、外国人女性や子どもたちの現状を学び、多文化共生を進める方策を参加者と共に考える。

2. 事業の内容

平成 24 年 10 月 20 日午後 1 時半より、静岡県総合社会福祉会館にて公開セミナーを行った。大学女性協会静岡支部会員、ONES 会員、一般参加者など 34 名が参加した。

「多文化共生と日本語教育」

講師 矢崎満夫氏（静岡大学教職大学院准教授）

発言者 NPO 法人 ONES の活動をする静岡大学生

児玉邦裕（静岡大学教育学部保健体育専攻）

望月孝太（静岡大学教育学部国際理解教育専攻）

森田訓子（静岡大学教育学部国際理解教育専攻）

NPO 法人 ONES；公立小学校外国人児童に対する補習ボランティア。2006 年より活動を始め、2010 年 NPO 法人登録。



講師矢崎氏の話はパワーポイントを使った丁寧で分かりやすいものだった。ONES 学生の報告は具体的で、参加者に希望を与えるものだった。予定には入っていなかったが、ONES 理事長大石純詩氏（中学校教頭）が参加して、発言してくれた。

質疑応答も含めた当日の内容のテープ起こしをする。それを発言者が確認の上、当日アンケート、まとめなどを含めた編集をして、印刷・製本して報告書冊子を発行する。会員、当日参加者、ONES 会員、関係機関（国際交流団体など）に配布する。

以下にセミナー内容のごく一部を記すが、是非冊子で詳細を参照していただきたい。

- 「外国につながる子どもたち」への支援とは、その子どもたちのためだけではなく、マジョリティである日本人のためにもなるということ。（矢崎氏）
- 『つながり』とは何か、『つながり』というのは、実は「生きる力」に結びつくのではないかと考えています。人間は一人では生きられませんから、改めてそれが浮き彫りになったということなのではないでしょうか。
『つながり』を生きる力にできる職業の1つとして、「日本語教師」もあると思っています。日本語教師というと、単純に日本語を教えるのが仕事、という感じがすると思うのですが、でも私は、言葉を教えることだけが日本語教師の仕事ではないと考えています。そのことを今日、お伝えしたい。そして、『つながり』を生み出す支援というものを考えていきたいと思っています。（矢崎氏）
- 日本人にとっても、「外国につながる子どもたち」との交流は、子どものときから異なる価値観に触れ、うまく折り合いをつけていく貴重な機会となります。このように、新しい学力観に基づく教育にも、結びつけることができると考えられます。（矢崎氏）
- 「外国につながる子どもたち」を取り巻く環境を整えるために、さまざまな『つながり』をつくる必要がありますが、中でも人間同士の『つながり』を重視しています。『人と人とのつながり』を考えた場合、まず学生にできることとして、『その子とのつながりをつくる』という支援があります。支援活動に入った際、まず学生がその子と仲良くならなければ、その先には進めません。学生が『学校の先生とのつながり』をつくることも、とても大切です。学生がその子の支援に入れるのはせいぜい週1回か2回、残りの日は基本的にその子は一人になってしまいます。誰かに頼らなければいけないのですが、学校の先生も日本語がわからない子どもの対応には困っています。どうやってコミュニケーションをとっていいのかわからなくて、その子のことを遠くから見ている。そういう困っている先生と、学生がつながりをつくって、その子の味方につけることがとても重要なのです。そのあとは、外国の子どもと、学校の先生とがつながりを持てるような働きかけができればいい。（矢崎氏）
- 来年から小学校の先生になろうと思っていますが、外国人の子どもがクラスにいたら、一番の理解者になってあげて、いろんな支援をしたいと思います。日本人の子にも働きかけて、世界の広さや、いろんな文化、考え方があるのだということを伝えていきたいと思います。

（ONES 児玉氏）

- 僕ら（ONES 学生）の会議では客観的な成果というのはわかりませんでした。しかし、大石さんがとってくれたアンケートからは、支援が日本語力の向上につながり、外国人児童の心が安定したとか、生活、友達関係が安定したとか、学習意欲が向上したとか、嬉しい話を聞くことができました。（ONES 望月氏）

■ONES の活動で小学校に行き、外国籍児童の子どもに日本語や学生支援をして、その子とつながりを持って、その子の日本語に対する熱心さ、一生懸命さを感じることで、私自身もとても「頑張らなくちゃな」という気持ちになりました。(ONES 森田氏)

3. 事業の成果

アンケートからも分かる通り、参加者は多文化共生の意義と、報告者の実践例をよく理解し、今後の活動に結びつけることが期待できる。多文化共生において日本語教育が大変重要であるという共通認識を、セミナーで得ることができたことが大きい。

また、報告書冊子を配布することで、多文化共生と日本語教育について、多くの人に関心を持ってもらう効果がある。

当日報告をした ONES の学生本人にも、準備などの積み重ねによって、プレゼンやレジュメ作成などの学習をするという効果があった。報告をしない学生も、当日参加して話を聞くことで、今後の大学での活動への意欲を喚起できた。参加者も学生の前向きな発言に刺激を受けることができ、世代間交流にも役立った。

4. 今後の課題

アンケートでも指摘されていたが、多文化共生のセミナーへの参加者を集めるのに毎回大変苦労する。多文化共生という言葉も、まだまだ理解が浸透していない。単なる国際交流ではなくて、多くの定住外国人が日本で暮らしている現実をしっかりと捉え、その外国人の女性や子どもが抱える課題の解決のために共に努力することが重要である。外国人が支援を受ける存在から地域社会の一員として地域を支えるようになれば、今の日本の現状を変えていくための別の切り口になるということを強調したい。

公開セミナー「多文化共生と日本語教育」アンケート集計 (回答者数 24 / 34)

問 1. あなたの性別、年代、居住地を教えてください。

性別 女性-20、男性-3、不明-1

年代 10代-4、20代-2、30代-0、40代-1、50代-4、60代-3、70以上-10

居住地 葵区-7、駿河区-6、清水区-0

その他-6 (東京都1 焼津市1 富士市2 浜松市1 不明1)、不明5

問 2. 今回のセミナー開催を何で知りましたか。(〇はいくつでも)

1. あざれあナビ-3
2. チラシ (入手場所: あざれあ・NPO センター) -2
3. 大学女性協会ホームページ-3
4. 友人・知人-4
5. 所属団体から (大学女性協会、ONES、富士日本語の会) -14
6. その他-0

問 3. 今回、参加された動機をお書きください。(〇はいくつでも)

1. 多文化共生の現状を知りたくて-18
2. 多文化共生の活動に活かしたくて-6
3. 講師・発言者にひかれて-5
4. 参加者の意見交換に期待して-2
5. あざれあ地域協働事業の講座だから-3
6. 家族や友人・知人に勧められて-5
7. その他-0

問 4. 本日のセミナーはいかがでしたか。また、その理由もお書きください。(〇はひとつ)

満足-20 (83.3%)、 まあ満足-3 (12.5%)、 やや不満-0、 不満-1 (4.2%)

★問4・問5・問6の感想・意見など自由記述より抜粋

- ・多文化共生を切実に感じざるを得ない現在の日本の状況の中で、身近でがんばっておられる先生や学生さん達の活動にふれ、新鮮な「学び」ができた。(70代女)
- ・言葉を教えることだけが支援ではないという視点に大変感銘を受けた。(40代女)
- ・支援の報告など具体的な話が聞けてよかった。(10代女)
- ・内容はよかったが、もっと他の大学の学生や先生や一般の方に来てほしかった。(50代女)
- ・若い頃国際理解教育を勉強して来て、国際交流を長い間やって来たので、最近の支援のあり方を再認識できたことが私にとって大変良かった。(70代以上女)
- ・静大と学生と市教委の取り組みは素晴らしいと思う。静岡市の実践は他市町へ広がっていくと素晴らしいと思う。そういう広がりはできているのだろうか。(50代女)
- ・学生の実践についての話ははじめて聞く機会だったので、先生の話と合わせ、すごく実践的、具体的になって役立った。(70代以上男)
- ・若さと情熱をもって工夫し、実践している様子を見て感動した。ボランティアの活動が、人が替わっても持続されることを期待。(70代以上女)
- ・同年代の支援者の生の声が聞けてよかった。生き生きとしたよい発表だった。(20代女)
- ・学生だからこそできる支援活動だと思う。(40代女)
- ・これからも活動を前向きにしていこうと思う。(10代女)
- ・子どもの立場に立って思いやりの深い接し方に感動した。(70代以上女)
- ・学生の力、若さを存分發揮して、もっと支援者を増やせたらと思う。(50代女)
- ・大学女性協会勝又さんの質問にあったように、対象者(支援の必要な外国人)が、中学、高校(大学)に進学し、就職し、日本の社会になじむまでの支援の、今後のあり方について考えさせられた。(70代以上女)
- ・ますます大切になってくるテーマだと思う。児童のみならず、親に対する「つながり」を如何に?(70代以上女)
- ・多文化共生を掲げるならば、エイリアンもいすに座るようにうながすのでは。(20代男)
- ・“おばさん”ボランティアとの連携・交流、日本語がある程度できる母国のボランティア希望者との連携などはどうでしょうか。(60代不明)
- ・外国の様々な人がその人らしく暮らせるように共に生きていく事を支援していきたいと思う。(70代以上女)



矢崎氏(後列左)とONESメンバー